

# 令和5年度 昭島市立共成小学校 学校経営方針

令和5年4月  
校長 森本 弘子

## 1 基本理念

教育者としての自信と誇りをもって、全教職員で心をついに、同じ目的に向かって共成小学校の教育活動を進めていきましょう。

心と体の健康 安全 人権

学校は、子供の尊い命と無限の可能性を預かっています。子供たちが安心して自己実現を目指せる場所でなければなりません。この3つは学校として大切にしなければならない大原則です。この3つが保障されている場でこそ、子供たちの学び、成長があります。

【生きる力】 変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

「昭島市教育振興基本計画」（令和4年度～令和8年度）」に基づく教育を推進する。

昭島市教育委員会テーマ「楽しい学校づくり」

「学校教育の基本方針」より

- ・ 確かな学力の定着
- ・ 豊かな心の醸成
- ・ 健やかな体の育成
- ・ 輝く未来に向かって

学ぶことが楽しい学校 教えることが楽しい学校

## 2 共成小学校の教育目標

- ・ 助け合う子
- 考える子【重点目標】
- ・ きたえる子

## 3 学校経営方針の方向性・概要

「令和の日本型学校教育」（Society5.0の時代・予測困難な時代に育むべき資質・能力）

令和3年1月26日中央審議会答申より

～『全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現』～

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手なることができるようにすることが必要。



学校教育目標 **考える子 助け合う子 きたえる子**

**たくましさ**

自己決定・自尊感情・自己実現

**未来を生き抜き、未来を創る**

「たくましく・しなやかな」共成っ子の育成

**しなやかさ**

自己受容・他者理解・協働意識

学校経営スローガン

言葉の力で

あい（合い・愛）あふれる共成小

かかわり合い（愛）

学び合い（愛）

認め合い（愛）

合言葉

一歩前に！Move 共成

目指す学校像

- 自律的に学びを進め、「**学びの自覚**」を得られる学校
- 自他を理解・尊重し、「**協働意識**」をもてる学校
- 体力・健康に関心を持ち、「**心と体の元気**」を感じる学校
- 自己決定しながら、「**なりたい自分**」を目指す学校

- 教師としての愛をもって、温かな教育をする教師
- 子供を第一に考えて思考する教師
- 共成小の教育に貢献する教師（最前線のラストマン）
- マネジメントできる教師（カリキュラム・自己の働き方）

目指す教師像

目指す子供像

- 学ぶ楽しさを知り、主体的に学ぼうとする子供
- 自他を大切にし、しなやかに、共に伸びようとする子供
- 心身共に健康でたくましく生きようとする子供
- 「なりたい自分」の実現を目指し、自己決定できる子供

共成プライド  
やさしい言葉

共成プライド  
あいさつ  
ありがとう  
アイコンタクト

確かな学力～学びの実感～

- 「指導の個別化」「学習の個性化」
- 「協働的な学び」の充実
- 学ぶことの楽しさと学びの実感
- 発達段階に応じた自律型学習
- ICTの効果的活用

豊かな心～協働意識～

- 全ての児童にとっての「安心基地・居場所づくり」
- 互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成
- 他者とつながる力の向上

やってみよう

内発動機

自己

他者

承認

理解

未来志向

なんとかなる

ありのままに

ありがとう

- 運動する楽しさと体力向上を実感できる授業
- 望ましい生活習慣のための実践的態度の育成
- しなやかで折れない心(レジリエンス)の醸成

健やかな体～心と体の元気～

- 主体的に学校や学級をよりよくしようとする力の育成
- 温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団
- 「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上

輝く未来～なりたい自分～

「安心基地」を基盤に、一人一人にスポットライトを！

出番をつくり、認めて、価値付け、伸ばして育てよう！

家庭とのつながり

学習ボランティア  
PTAとの協働

特別支援教育の充実

児童理解・効果的な対応  
大空・若草との連携

地域とのつながり

地域人材の活用  
地域行事への参加

#### 4 児童の「安心基地」で あるために

「安心基地」は、信頼できる人が、常にそこにいてくれる、と言おう日常の中で成り立つ。「自分のことを気にしてくれている」あるいは、「自分のことをわかってくれている」という安心感に包まれるようなかわりを日常的に心がけましょう。

##### (1) 教師の役割

- ① 教師が児童とつながる・・・できないことに注目してつながるのではなく、できていることに注目してつながる（言語化して認める）。
- ② 児童と児童をつなげる
- ③ 児童をその子自身とつなげる・・・自分の良さを自覚する（認められてこそ）、得意なこと、苦手なことがあるそれが「個性」。

学級経営は、「つながる力」の存在に気付かせたり、それを身に付けさせたり、それを実践させたり、その良さを実感させたりしていく場。ここで生まれた「つながる力」は、子供たちが社会に出たときに、自分らしく生きる上で、役立つ力となるはずで

##### (2) 「児童理解」について、共通認識で。

児童の不適応の中には、実は大人側や周囲の無理解や誤解が影響していることもあります。

- ① 児童を変えようとするのではなく、自分を柔軟に変える。
- ② 大人側の都合で定められた枠組みに無理に当てはめようとしない。
- ③ 自分の手で、確実に変えていけることから着手する。
- ④ 思い込みや先入観の下に行われてきたこれまでの「児童理解」を見直す。
- ⑤ 実態や能力を超えた過度な期待や要求を課さないようにする。

### 先生の笑顔が何よりも大切。

#### 西洋のことわざ

Smile is a medicine with no side effects.

（笑顔は、副作用のない薬）

Laughter is the best medicine.

（笑いは、最良の薬）

笑顔を絶やさない先生がそこにいてくれる。

（そのままでもいいんだよ）と肯定してくれる。

⇒

「安心基地」

安心して、自己決定、主体的な行動ができる。

## 5 指導の重点と具体的方策・評価項目

		児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	
中期目標			
短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目	
確かな学力の定着	「個別最適な学び」を意識した授業改善	「指導の個別化」	一定の目標を全ての児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進める。
		「学習の個性化」	個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げる。自分の「問い」を基に追究するなど。
		個に応じた指導	児童の多様な実態からくる課題（困り感）に、個別に対応した指導。机間指導で個別に指導、ヒントを提示など。
		特別支援の視点	合理的配慮やユニバーサルデザインに基づいた授業・明確な指示・見える化。教室環境の整備 デジタル教科書の活用。
	「協働的な学び」を意識した授業改善	考えを共有する場の設定	日常的な意見交流・必然性のある話合い 少人数（ペア・3or4人）⇒学級へ、段階的に考えを出せる指導。
		児童同士の教え合いの場	人に説明することで自分の学びが確実にになり、深まる。できたこと、分かったことを伝え合える学級に。また、分からないことを声に出せる温かな学級風土を。
		I C Tの効果的活用	タブレットを意見の共有の効率化・見える化等、手段として効果的に活用する。
		多様な他者との関わり	発達段階に応じて、地域人材・GTなどを活用した探究的学習や体験活動を取り入れる。
	学ぶことの楽しさと「学びの自覚」を得られる授業づくり	導入の工夫	児童の「やりたい、やってみたい、できそう」を引き出す単元・毎時間の導入。児童の既習学習や体験（潜在）に働きかける問いかけ、問いをもたせる工夫。
		1時間1単元の見通し	単元のゴールを明確に示す。（モデリング）単元の学習計画を児童と共につくる。1時間の学習の流れの見える化。
		1時間1単元の学びの自覚	1時間の学習で、何が分かったかなど各自が学びを振り返り、自覚する時間を確保する。自分の言葉でまとめられるように。そのために、授業構成力を高める。教師の説明は、見える化など工夫して端的に。単元毎の振り返りも重要。「個」⇒「協働」⇒「個」の流れを意識。最後は、児童が、個々に学びを完成させる。

		スモールステップで評価	学びのペースは多様。スモールステップで目標を設定し、変容を捉えやすくする。できたことを言葉やアイメッセージなどで、伝え、価値付ける。	
	発達段階に応じた「自律型学習者」を育てる授業づくり	教師のファシリテーション	「答えは、児童の中にある！」 低学年…児童の伝えたいことを代弁。 高学年…児童の発言をつなぐ。 スライドアウト（広げる） チャンクダウン（深める）	
		学び方の指導	「みんな一緒に学び」、で学習の土台をしっかりとつくる。そこから、学年に応じて、主体的に学びだすためのステップをふむ。（リード・サポート・バックアップ）	
		自己選択・決定の場	授業の中で、ちょっとしたことから自己選択させる。どの間から進めるのか、どこまで進めるのか、何問解くか、考えを共有する相手を選ぶ、調べる方法を選ぶなど。	
		自主学習の取組	学年に応じて、興味関心に応じて、自分の学びたい学習に取り組ませる。認める場の工夫も。宿題の工夫（何のための宿題か）	
豊かな心の醸成	中期目標	児童が自尊感情をもち、安心な環境の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。		
	短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目	
	全ての児童にとっての「安心基地・居場所」づくり	SOS の出し方指導	年3回心のアンケートの活用、ふれあい月間の取組等で援助希求行動ができるよう指導。	
		いじめ未然防止・早期解決	いじめはいつでもどの子にも起きうるという認識に立ち、児童の小さなサインを見逃さない。（ヒヤリ・ハットの法則）	
		相談しやすい雰囲気	学校全体で児童にこまめに声をかけ、誰にでもいつでも相談できる環境をつくる。	
		個別の配慮・支援の充実	個々の児童理解に努める。個々の特性を理解し、児童の困り感に寄り添って支援・配慮を行う。特別支援教育の専門性を高める。	
	互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成	友達の良いところ探し	日常的に友達の良いところを伝え合う活動。P・A やグループエンカウンターなどの活用。	
		感謝を伝え合う関係	自然に「ありがとう」が言葉で伝えられる関係を作る。教師からも率先して、「ありがとう」を伝える。日常の中で、できている児童をその場でほめ、価値付けることで、他の児童への意識付けに。	
道徳授業の質の向上		価値理解・自己理解（自己の強みを知り、弱みを受け入れる）・他者理解を深める道徳授業		

			を実践する。また、自己を見つめ、考える道徳授業を実践する。
		「コグトレ」による認知機能の強化	月数回、学年の発達段階に応じて、「コグトレ」のワークを取り入れ、認知機能や集中力などを高める。
	他者とつながり、協働する喜びの実感	やさしい言葉の浸透（共成プライド）	「やさしい言葉」を豊かにする。言語環境整備に取り組み、児童の言語感覚を磨く。教師自ら「やさしい言葉」で指導する。教師の指示も、命令口調でなく。
		挨拶・ありがとう・アイコンタクト（共成プライド）	「挨拶・ありがとう・アイコンタクト」が心をつなぐことを継続的に指導する。先生、友達だけでなく学校内の来客に対しても自発的な挨拶ができるよう指導する。
		児童同士の交流による成功体験の積み重ね	同学年同士や異学年交流など、行事や日常の様々なかかわりの中で、協働する楽しさを味わわせ、達成感につなげる。
		児童会活動の充実	なかよし班活動など児童主体の集会活動などで、一体感や連帯感を味わわせる。
中期目標	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え、実践する態度を育む。		
短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目	
健やかな体の育成	運動する楽しさと体力向上を実感できる授業づくりと日常の運動推進	共成サーキットの取組	R4 年度に体力向上担当から出されたものを参考に、体力調査で課題のある種目を中心に帯活動で取り組む。
		元気アップガイドブックの活用	授業の基礎運動の中で、元気アップガイドブックの内容を意識した体づくり運動を行う。
		運動遊びの充実	外遊びの充実。遊びを紹介する。クラス遊びなどを取り入れる。児童の委員会主催の運動遊びの企画を推進。
		体育講師の有効活用	体育講師と連携を密にし、個別最適な運動の場の工夫や個別の指導・支援を充実させる。運動の苦手を克服できるよう支援・指導。
望ましい生活習慣と安全な生活のための実践的態度の育成	家庭と連携した GM60 分	日常の学級指導の中で、GM60 の効果を伝え、児童自身の意識化を図り、学期始めに重点的に取り組ませ、振り返らせる。保健だより等で児童や家庭への啓発を図る。	
	食育教育の推進	栄養士との連携を図り、年間計画に基づいた給食指導。各教科・領域と関連させて食育を推進する。	
	安全指導の充実	年間計画に基づき、安全教育プログラムを活用して、毎月の安全指導を確実に実施するとともに、児童が考える場を設定する。	

		児童の危険回避能力の向上	安全教育プログラムやワークシートなどを活用して、自ら安全な行動ができるようにする。
	しなやかで折れない心（レジリエンス）の醸成	命の教室	5年生の道徳の授業として、特別講師を招いて授業をしていただき、児童一人一人の心にしっかりと残るよう、振り返る機会をつくる。
		ストレス対処法	ストレスを軽減する対処法や、ストレスをパワーに変えるスキル、心のもち方などを学ぶ機会をつくる。
		教員の前向きな言葉かけ	プラス思考の言葉が飛び交う教室づくり。スモールステップでの成功を積み重ね、その都度価値付ける。
		心のもち方指導	ストレスの対処法や、SOS の出し方など、スクールカウンセラーや大空教員などと連携しながら、心のもち方や他者とのかかわり方を学んだり、振り返ったりする機会をつくる。
輝く未来に向かって	中期目標	認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己の良さを実感し、自己決定しながら、「なりたい自分」を目指す学校を創る。	
	短期目標	具体的方策	指導内容・評価項目
	児童が主体性に学校や学級をよりよくしようとする力の育成	一人一人の活躍の場	学級内で、授業で、行事などで、一人一人が活躍できる場をつくり、役に立つ喜びや、自己有用感や自信を高める。
		学級会活動の充実	全体計画に基づいた指導、係活動・話し合い活動の充実。学級活動の指導教本を活用する。
		主体性を実感できる行事	「何のための行事か。」ねらいを明確にして、児童の思いや挑戦を形にする。児童が自ら創った、本気で取り組んだという実感と達成感のある学校行事をつくる。
	温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり	共成会議や実行委員会	児童会活動のねらいに沿って、児童が自分たちでより良い学校を創っているのだという実感をもたせる。多くの児童の活躍の機会をつくる。
		学級ルール・規律の徹底	何のためにルールや規律があるのか、児童に考えさせる機会をもち、自分たちで守ろうという意識をもたせる。
		安心して挑戦できる風土	学級・学年・学校が全ての児童にとっての「安心基地」になるよう、児童に寄り添い、児童の困難を代弁したり、つないだりする。失敗を笑わない学級風土をつくる。
		2回のQUの結果活用	QUの結果にもとづいて、より良い学級集団をつくる。気になる児童についてQU結果か

「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上		ら、効果的な対応法を見出し、指導に役立てる。
	SST や P・A の活用	学級活動や学級指導などの場で、児童の実態に応じた SST や P・A を取り入れる。教員が互いに具体的実践例を発信し、共有する。
	キャリアアルバムの活用	キャリアアルバムの取組前や日常の学級指導の中で、児童同士が認め合う機会をもつ。児童の振り返りから、成長したことについて機を逃さず、評価し、伝える。
	自己選択の場の設定	学校生活の様々な場で、小さな自己選択の経験を積み重ねる。選択できたことを認め、それがうまくいったことをについて機を逃さず褒める。
	成功体験の積み上げ	ちよつと頑張ればできそうな目標を設定させ、成功体験を味わわせる。その積み重ねで、目標を少しずつ高めていく。
	下学年のモデルとしての自覚	学校行事や異学年交流で上学年の姿を見て、憧れ、自分もああなりたいというあこがれの気持ちをもてるようにする。上学年は、リーダーとしての自覚をもち、主体的に行動できるようにする。

## 6 共成小学校の教職員としての姿勢

教職員も、児童も、保護者も、地域も「共成小大好き」「共成小にかかわってよかった」と思える学校を一人一人が当事者意識をもって、つくっていきましょう。

### (1) 教師として大切にしてほしい心構え（児童の自律性と協働性を育てるために）

#### ① 児童との毎日を楽しむ

「児童との毎日を楽しむ」ことを意識して、教師として、自分ができるようになったことに目を向けていくと心に余裕がもてます。

そうすると、児童のこともできるようになったことに目を向けられます。

#### ② 「みんな一緒」を求めない

「みんな一緒」の世界では、その場面や分野で「得意な子」と「得意じゃない子」の二つに分けられてしまいます。「得意じゃない子」にとっては辛くなります。「みんな違う」ことが大切にされている場だと、周り自分と自分を比べず自分らしさを発揮できます。

#### ③ 児童を「変えよう」としない

「こんな力を付けたい」を追い求めすぎると、自分の思うように児童をコントロールしようとしてしまいます。それがうまくいかずにイライラしたり、ストレスをためたりしてしまいます。自分の思うように「変えよう」としないことは、自律性と協働性を育てる教師の土台となる考え方です。そういった環境でこそ、児童は安心して力を発揮し、成長します。

#### ④ 基本的に叱らない（他人を傷つけたり、いじめが起こったりしたときなど以外）

本当に叱る必要があるのかを自身に問いかけてみましょう。「どうしたの?」「どうすればよかったのかなあ」と現状を聞き、原因を一緒に分析し、次の方向性を児童自身が考えられるようにすれば、叱る必要はないのではないのでしょうか。「児童が自ら変わる」きっかけをつくりましょう。

#### ⑤ 「ありがとう」を伝える

教師自身が心の底から「有難いなあ」と思う気持ちを素直に発することを大切にしましょう。教師の姿を見て、「ありがとう」を伝える児童が増え、教室全体に広がっていきます。

#### ⑥ 一日の最後に振り返る

振り返りをせずに毎日を過ごしていると「何となく」の感覚で行動することが増えてしまいます。振り返ることで、「ここがうまくいっていないなあ。次はこうしてみよう」と考えられます。振り返りを記録することで、思考が整理でき、記録にもなります。教師こそ、振り返りが大切ですね。

### (2) 温かな教育をする教師

私たちは、「人」を育てる仕事をしています。目の前にいる児童は、未完成な人として存在し、間違いや失敗を繰り返しています。その失敗を失敗で終わらせるのではなく、人としての成長にどうつなげていくのかが教育者としての価値です。ですから、児童の前に立つ教育者には、何より「温かさ」が必要です。「温かい愛」をもって児童の前に立ってください。児童の心に届く指導をお願いします。

### (2) 子供を第一に考えて思考する教師

常に「目の前の児童にとってどうか、理解できたのか」を視点に考えてください。どんなに児童のことを思っている言動であっても、児童自身が理解できないのであれば、折角の思いは伝わりません。誠実に、児童の思いを聞き、児童と共に歩いていく教師であってください。そういう教師は、児童に信頼されます。だから、保護者にも信頼されます。

### (3) 共成小の教育に貢献する教師（最前線にいるラストマンとして）

共成小学校の教育活動の最前線にいて、日々児童に指導しているのは、先生方です。先生方の危機管理の感覚や判断が重要です。管理職の指示を待つことが必要なこともあります。経営方針に沿ってご自分で判断し教育を行うラストマンとしての姿や姿勢を期待します。学校経営や学校運営に積極的に参画し、共成小の教育に貢献する教師を目指してください。

### (4) マネジメントできる教師(カリキュラム・マネジメントや自己の働き方)

ねらいを明確にして、効率的な学習になるように、効率的で効果的な授業運営をしていきましょう。(1時間のタイムマネジメントも大切)

危機を感じるアンテナを高く張り、ご自身が最大の危機管理人となりましょう。常に最悪を想定し、(深刻にならず、真剣に)危険を未然に防ぐ段取りを考えることが最大の危機管理(リスクマネジメント)です。

また、ご家庭の事情やライフスタイルもそれぞれです。ご自身の働き方をマネジメントしていきましょう。だれか、モデルになる人を見付けるとよいです。

## (5) 大人の言動が子供の手本

- ① 児童に「きまりを守ろう」と胸を張って指導できるよう、自らもきまりを守りましょう。
- ② **教職員の言葉こそ、最大の言語環境となることを意識しましょう。**
- ③ 相手の立場に立って、理解に努めましょう。
- ④ 物を大切に扱い、よりよい環境づくりに努め、物や環境を介して人を大切にしましょう。

## (6) 服務の厳正

- ① 思いや考えを話し合える教職員相互の雰囲気継続しましょう。
- ② 学校の個人情報、児童と保護者等のものであり、厳正に扱きましょう。
- ③ 暴力・暴言は、再生産されるものと肝に銘じ、心の通う指導に努めましょう。
- ④ 公正な財務管理を行い、予算を有効に、適正に活用しましょう。

